

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット共通)

事業所番号	2792200269		
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき巽北		
所在地	大阪市生野区巽北4-1-15		
自己評価作成日	平成29年5月19日	評価結果市町村受理日	平成29年7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年5月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オープンより1年経過致しました。入居者の方々に日々笑顔で過ごしてもらいたいと思い、スタッフ一同努めております。帰宅願望の強い方の入居であってもすぐに落ち着いてくださるのは…他の入居者の皆様があたたかく、明るい雰囲気を作って下さっているからだと感じています。入居者の方々の交流は、他階にも及んでいます。  
駅から近く交通の便もよく、ご家族方々にも着て頂きやすい環境であると同時に、スーパーなども多くあり買い物も楽しんで頂ける立地です。お店だけでなく公園も点在しております。日課であるお散歩では、近隣の方にも声をかけて頂けることも増えており、今後も地域の活動にも積極的に参加し、地域に根付いた施設作りを行っていきたくと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後2年目、3ユニットの新しい事業所である。経験豊富な管理者の知恵と工夫と努力で、地域に根付いた事業所創りを行っていきたく日々職員と共に頑張っている姿勢が確認できた。  
家族と管理者間の信頼関係がよく、いろいろな意見・相談が提案しやすい雰囲気があり、提案された課題は一つ一つ適切に検討し、対応している。また家族通信は毎月新聞と個別近況報告を発行し好評を得ている。現在、家族会開催の希望が家族からあり、立ち上げに向けて検討中である。  
生活の内容では昔馴染みの場所への訪問や、入浴の毎日や夜間の実施(希望により)、排泄では、ほとんど全員が紙パンツから布パンツに変更している例などからも、本人本位のケアの実践に全職員が取り組んでいることがわかった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出退勤時に確認できるよう貼りだしを行っている。また、会議内でも定期的に確認を行い、常に意識できるように努めている。	「利用者の人生と経験を尊重し、その方の人生が地域の中でこれからも続くようお手伝いします(抜粋)」という法人の理念を共有実践している。事業所独自の理念作成は今後の課題としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の町会の掃除などには積極的に参加し、地藏盆などの際には入居者と参加している。	町会に加入し、行事に参加しているが、町会そのものの活動があまり活発ではないので、他のいろいろな機会をとらえて地域とのつながりを図っている。新規開設時の食事つき内覧会などには近隣から、たくさんの参加があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オープンより事業所だけでなく、地域に向けたイベントの開催を行っている。その際に簡単なセミナーなどを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、町会長やご家族の参加がなかなか難しい状況であるが、随時参加のお願いと開催後の報告は行っている。包括からの意見などは施設運営に反映できるようにしている。	開設後1年間に規定回数の会議を開催している。町会からと家族の参加が案内を出して依頼しているが、実現していない。会議では事故やヒヤリ・ハットの報告をするなど努力しているが、活発な意見交換の場にはなっていない。	地域関係者を町会長だけに限定せず、もっと広げて考えて一人以上の参加が実現することを期待する。家族参加についてもいろいろな方法を試行錯誤して頑張っていくのがのぞまれている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告、相談すべき事柄があれば速やかに行い、助言を求めている。	新規開設でなので、問い合わせる事柄も多くあり、その都度、市や区に相談している。地域包括支援センターや事業者連絡会等とも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所への貼りだし、定期的な勉強会にてスタッフの理解を深めている。施設内は自由に行き来できるような環境作りに取り組んでおり、玄関においても希望があればすぐに開錠できるようにしている。	玄関は電子錠だが、建物内は自由に行き来できる。帰宅希望には適宜適切に対応している。年間研修計画を作成し年1回はこの項目に関する勉強をしている。拘束の事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は本部での研修を定期的な受け、スタッフへも定期的な勉強会にて理解を深めている。また、見過ごすことのないよう管理者はもちろん本部も定期的に巡回をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、後見人制度を利用されている方もおり入居前より研修を実施している。また新入職なども増えている為、今年度も実施予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者以外にも1名同席し、十分な説明を行っている。解約は現在、1件もない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者へは担当やCM、管理者が定期的に必要な確認を行い、ケアプランに反映させるようにしている。家族へは意見箱の設置するとともに、言いやすい関係を構築できるよう努めている。	家族と管理者間の信頼関係がよくいろいろな意見、相談が持ち込まれ、一つ一つ適切に検討し、対応している。家族通信は毎月新聞と個別のお知らせを作成している。家族会開催の希望があり、現在立ち上げに向けて検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部へは定期的な会議の場で管理者より発言できる機会があり、施設内では毎月の会議内で発言できる場を設けると同時に日常のなかでも風通しの良い職場であるよう心掛けている。	月1回の会議には、全員の参加がある。職員からの意見により、利用者別の留意事項一覧表を作り役立っている。個別面談は年2回あり、意見が言いやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの実績や状況においては、管理者より本部に定期的に報告しており、査定評価などに反映できるように行っている。管理者においては、本部より定期的に話をする場を設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では、毎月勉強会を実施している。また、管理者は本部での勉強会に参加している。また、今年度より外部講師による研修会など実施予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地区の地域密着連絡会だけでなく、他区の交流会や勉強会にも積極的に参加している。また、スタッフは地域の勉強会には順次参加し、他区についても案内は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者・CMはアセスメントをしっかりと行うよう努めている。入居後も管理者・CMだけでなくスタッフも話ができるよう努めると同時に、発言などは詳細に記録し、共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者は家族から詳細に聴き取ることに努め、入居後も定期的な報告を行い、より良い関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入前に十分な聴き取りを行っており、必要としているサービスだけでなく、他サービスの対応も導入時点で実施できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○○してあげる、というような考えのスタッフはおらず、良い関係が築けていると感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者やCMを中心に家族とも密に連携をとっており、関係性ができていると感じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地区の方々が多い為、定期的に外出がてら車で近隣までお連れし、散歩など行っている。また馴染みの散髪なども希望があればお連れし、これまでの関係性が途切れないよう支援している。	入居前に帰宅訪問し以前からのお付き合いの方が集まって担当者会議を行い(家族、ケアマネ、他事業者、)それまでの生活を把握している。知人友人の訪問は多くある。自宅に行ったり、以前の職場関係に行ったり、理美容院へ行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもりがちの方もおられず、入居者同士が顔が見れなければ誘いに行くような関係性ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、サービスが終了した方はいらっしゃらない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	CM・居室担当を中心に希望や要望などを伺えるような関係性作りに注力し、把握できるよう努めている。また訴えが困難な方には家族やこれまでの生活歴などを参考に入居者本位の支援ができるよう努めている。	会話のできる方はその中から把握できることはかなえてあげられるように努力している。意思表示の難しい方の場合は表情やしぐさから理解しようと努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に十分な聴き取りを行うと同時に、入居後も本人はもちろん、家族や馴染みの方々に教えて頂き、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を詳細に残し、スタッフ全員が共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のなかで本人、家族への聴き取りはもちろんプラン作成の際には担当者会議を実施し、それぞれの意見を取り入れるよう努めている。	入居前に暫定プランをたて入居後サービス担当者会議を経て本プランを作成し、モニタリングは3月ごとに担当職員とケアマネが行い6月ごとにアセスメントとサービス担当者会議で検討している。家族、医師に説明し同意を得て更新作成としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りなどを利用し、共有を行っている。また、定期的にモニタリングを実施しプランの見直しもを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、本人や家族と話し必要なサービスがあれば提案し利用できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在でも近隣にお住まいだった方から面会や連絡があることも多く、継続して関わりを持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続してかかりつけ医に診て頂けるよう支援しており、現在も往診・通院ともに本人や家族の希望を優先している。	入所時の説明により、多くの方が、月2回の協力医の往診を受けているが、以前からの医師に引き続き受診している例もある。その場合や専門科への通院は原則は家族同行だが、施設が送迎したり付き添う場合もあり臨機応変に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問介護にて、報告できるようケース記録や申し送りを活用している。また、気になる変化においては24時間体制で連携をとり相談できるシステムにある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には付き添い、可能な限りムンテラにも参加させて頂き、早期の退院に向けて		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明を行っており、現在、看取りの方はいないもののすでに希望されている方もおり、医療とも連携がとれるよう密に報連相を実施している。	医療連携加算を算定しており、入居前に重度化した場合の指針の説明と同意を得ている。新規施設であるが管理者はじめ職員には経験豊富な人も多く、医療も含め、看取り介護の準備は整っている。研修も年間計画に組み入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会で取り入れているだけでなく、新入職があればその都度緊急時の対応を指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、スタッフが毎日確認できる場所に避難場所を掲示している。	避難場所は近くの大きい公園で散歩やイベントで時々実際に行っている。町会からは役員連絡網が届き、災害時の協力の申し出があった。非常用備品の準備をしている。建物内が広く非難誘導しやすい作りである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や人権擁護の勉強会を実施するとともに、スタッフ同士でも注意できるような関係性を築けるよう努めている。	研修が年間計画に位置付けられている。理念に経験と人格の尊重がうたわれており、実践を心がけている。呼称は一律的でなく、その人が呼んでほしいという呼びかけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択して頂けるような声かけを行うよう努めている。また、傾聴できる時間を設け気持ちを伝えやすい環境作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事以外の時間は業務の決まりではなく、臨機応変に入居者の方々のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時や入浴前には、本人と洋服を選ぶようにしている。またお出かけ前には洗面に立ち、身だしなみを整え、意識できる環境作りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	切る・炒めるなどの調理はもちろん、参加できない方にはメニューを記入してもらったり、メニュー決めを手伝ってもらったりしている。	昼と夕は宅配の材料で職員と利用者が調理している。朝食は、利用者と職員が献立から買い物、調理をしている。誕生日や行事の特別メニューや外食も個別で実施している。ミキサーやキザミなども形だけでなく、味も美味しく見た目もよいように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量はその都度記録を行い、増減などがあれば主治医にすぐに報告するようにしている。また、栄養バランスにおいては定期的に管理栄養士に確認してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、週に1度歯科往時にはケア時のアドバイスを専門家より頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導だけでなく、その方にあったペースで排泄介助を行っており、入居後オムツやりハパンを着用されない方も多い。	入所時は病院から来た人も自宅からの人も紙パンツ使用の人が多いが、入所後は一人を除いて全員が布パンツである。トイレのマークがわかりにくい人用に「便所」と大きく書かれたトイレもあった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬でのコントロールだけに頼らず、水分摂取に努め、また腹部マッサージなどを実施し自然排便ができるよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴曜日や時間は決まっておらず、その都度確認し実施している。週3回以上から毎日入浴している方もいる。	浴室は一般自宅用の浴槽で、補助機器と介助方法の工夫で重度化し場合も入浴ができている。夜の入浴が希望の方にも職員の手があれば、実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムや体調に応じた睡眠・休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報はスタッフがすぐに見れる場所に保管しており、確認できるようにしている。また変更があった場合は共有できるように申し送りを実施し、情報も保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室担当やCMが中心となり、本人の楽しみ・やりがいを探り、ハリのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日課になっており、外の空気を感じ気分転換ができるように努めている。また、車などを利用し本人の希望の場所へ出かけることもある。	散歩や買い物などの近所の外出は個別にほぼ毎日行っている。車で馴染みの場所や少し遠くへも出かけているが、職員はさらに外出活動を活発にしたいと思っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度ではあるが、大半の方が所持しており買い物の際には支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応できるようにしており、家族への理解も得ている。実際に定期的に電話をかけたり、ハガキを出している方も多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気や空調は季節に応じたものができている。	フロアの中央に明るく広いリビングルームがある。対面キッチンからは、調理の音やにおいが感じられ生活感がある。室内は華やかな飾りつけはなく、落ち着いた雰囲気であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはもちろん、施設内は自由に行き来できる環境である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時などに十分に説明を行っており、居室内には思い出の品や使い慣れたものを持ち込んで頂けるようお願いしているが、現状は劣化などで使えないものが多く、家具などの持ち込みは少ない。写真などは持参されている。	ベッド、クローゼット、カーテンが備え付けであとは、家具や写真、手作り品など好みのものが持ち込まれ、その人らしい個室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや入浴の際の位置など、本人の力を十分に発揮できる場所で統一した支援ができるよう努めている。		